

# 研究授業を振り返って

山本由紀子

YAMAMOTO Yukiko

東京女子学院華道科

Tokyo Jyoshi-Gakuin High School

## 1. 研究授業の依頼

昨年7月に入った頃、校長から「総合学習としての研究授業をしてみないか」という話があった。内容については、ある先生と打ち合わせをする時に詳しく話すといったことだったが、自分自身、今までに研究授業の経験は1回ほどあるが、それも華道の授業としてのものであったので、果たしてどれほど自分にその力量があるのか不安に思った。また、今年度は、補助の先生3人と私で全学年を受け持ち、指導計画を立てていたため時間的に非常に厳しく、研究授業に費やす時間をどれほどそこから出せるかといったことも不安を増大させた。

## 2. 研究授業の魅力

7月19日に、初めてお目にかかる長野先生と校長、私で研究授業の打ち合わせをした。すでにおおよその日程などの内容は決まっており、「華道と数学の不思議なかかわり」といった授業主題であった。自分の力量と時間的なことから大きな不安を感じていたため、長野先生のお話を伺いながら、とても自分にはできないと思った。ここではっきりと断らなければ、全6学年への授業も疎かになってしまうと感じた。

しかし、自分の真の思いとは裏腹に、話は進んでいった。これも自分の力量を省みず、どこかにこの研究授業に魅力を感じてしまった私の愚かさである。

7月27日にこの研究授業と一緒に取り組んで下さる松寄先生に初めてお会いした。様々な話から、松寄先生の数学への思いを感じ、これからの研究授業を乗り切れるのではないかと思った。

## 3. 研究授業までの打ち合わせ

8月21日の打ち合わせで、当初は高校3年月組1クラス3時間程度の研究授業の予定であったが、4時間×高校3年5クラス＝20時間に決定した。日程は

第1週目－11月6日（土） 8日（月）  
 第2週目－11月13日（土）15日（月）  
 第3週目－11月20日（土）22日（月）  
 第4週目－11月27日（土）29日（月）

土曜日4限－月組  
 月曜日3限から6限

－雪組 花組 梅組 松組

かなり膨大な研究授業になったのも、高校3年生全員に公平に楽しい研究授業をしたいといった考えからである。

9月11日の打ち合わせでは、4時間分の指導案、また4時間目に何を引き出せるかを検討するために実験的な研究授業を高校2年生の1クラスに実施することを話し合った。

9月26日の打ち合わせでは、実験的な研究授業の日程、指導案、クラス設定を決めた。

10月2日、9日に、高校2年花組（文系理系混合クラス）に実験的な研究授業を試み、16日、18日、30日、11月1日、計10時間、高校3年の授業に松寄

先生が見学という形で、11月6日から29日まで20時間に及ぶ研究授業の準備が始まった。

#### 4. 実験的な研究授業

高校2年の1クラス（文系，理系混合クラス）に行った実験的な研究授業では，生徒の「心」と「形」に対する考え，「再現」とは「心の再現なのではないか」「再現することは不可能でも再現することに努力することが大切なのではないか」など，素晴らしい意見を得ることができた。

華道と数学のつながりを高校2年の生徒は何の隔たりもなく受け入れていた。この実験的授業によって，次に始まる高校3年生への研究授業への力づけになったことは言うまでもない。

＜課題「最高作品を次週に再現するためにはどうすればよいか」に各班から出た意見＞

1班：角度を変えて見る。心を込めていける。

2班：同じ花材を選ぶ。いろいろな角度から写真を撮る。

3班：いろいろな方向からスケッチする。同じ位置であることを意識する。

4班：心を作品にうつす。（花材の）特徴をつかむ。細かな所に気を配る。同じ花形にする。

5班：心を込めていけ，特徴をいける。角度，長さを試行錯誤する。

6班：水盤の下に切り落とした葉をまき，天まで届く長さを表現し，枝の長短をつける。それらを前後左右からスケッチし，全体をイメージする。

7班：同じ花材，花器，コンデイショ

ンにする。テーマを決める。角度など細かなところまでスケッチする。感想の中に心境をまとめる。

8班：雰囲気をはける。細かなメモをする。形を覚える。

#### 5. 反省など

高校3年に行った20時間の研究授業のシートやアンケートについて，まだまとめることができないため，指導案や資料の提示のみにとどめるが，この研究授業での反省点などを挙げれば，以下の6点である。

##### ①華道と数学の接点について（華道科からの一方的な判断から）

- ・考えることには限界がない
  - ・ないものを見る力を養う
  - ・具象から象徴的な美への変換ができる
  - ・後ろ傾斜した枝はどの位の角度を出せば奥行きと感ずるのか
  - ・天地人のおりなす不等辺三角形が美しさは四角形より優るか
  - ・基本花形の美しさ（黄金比）
  - ・立体的なものを平面的にとらえる
  - ・数学史と華道史
  - ・植物の中の数学と華道
- など生徒が目をはらせる接点をさらに考慮できたのではないか。

##### ②授業の協力体制

研究授業に費やす時間は，授業に当たる時間の他に，打ち合わせ，資料作り，生徒からの意見，生徒の感想などの資料を読み検討するなど，多くの時間を要する。また，2人以上の先生がこうした取り組みをする場合は，積極的な意見交換が必要になる。

今回の研究授業では，松寄先生，理数研の会員の方々，筑波大学の院生の方々，カシオ計算機の相良様，東京女

子学院の教職員の方々に十分な協力を頂いたことで、かなりの時間を資料作りなどに費やすことができた。同じ学校内の教員同士でも、これだけの共通の時間を持つことは厳しいのではないかと思われる。

### ③学年設定

高校3年生の2学期は、行事、推薦入試などがあるため、授業以外の時間でまとめた4時間分のシート・アンケートはかなりの負担になったのではないかと思われる。けれども、回収率は大変高く、生徒の協力を得られたと思う。

### ④計画性

今回は7月上旬にお話をいただいたこともあり、夏休みを使い2学期の行事や授業計画の中に何とか割り込ませることができたが、他学年のノート評価などに費やす時間がとれず、返却を遅らせてしまったことは生徒に申し訳なく思う。研究授業は年度の計画の中にあることが望ましいと思われる。

### ⑤教師間の普段のコミュニケーション

②授業の協力体制や④計画性の他に教師間で様々な教育的な話題が普段交わされていれば、こうした総合学習は、かなりスムーズに進むように思う。

今回は、研究授業をすることになって初めてお会いした松寄先生との授業となったが、遠距離ながらこまめな連絡を取り合うことができた。その際、電子メールなどが大変役立った。

### ⑥生徒と教師の普段のコミュニケーション

授業において、華道では生徒の気持ちを植物に向けることが大切なため、実技指導がほとんどであるが、この実技指導の中から生徒1人1人と会話ができる。今回の研究授業では、こうした生徒1人1人との会話が土台になり、楽

しいと感じられる授業ができたと思う。

## 6. 終わりに

華道科は東京女子学院の特設教科の1つであり、本校の建学の精神を根本の柱として、「華道の諸活動を通して個性豊かな表現能力と鑑賞する力を高め日本の文化と伝統を尊重する態度を養う。また、学校教育の究極的な目的である人格形成を達成させるため、精神的、知識的、技術的な領域から華道の目標を常に考慮する」ことを目標に指導している。

ここで目標と述べたのは、この指導計画が膨大なもので私自身がこれを全て身につけているかと言えば、決してそうではないからで、身につける努力をしたいと思います。これもすぐには無理である。やはり1歩1歩、生徒と共に植物から学ぶ気持ちで取り組むことが大切に感じる。1時間の授業の中でできることは限られているが、絶対に譲れないことは「植物に触れ、植物をいけることは楽しい」である。実際にどんな嫌なことがあっても植物に触れ、生徒たちと会話を交わすと自然に心が和み楽しくなる。こうした私の華道の授業と松寄先生の数学の世界が結びつき、生徒たちに何かをつかんでもらっていたら幸せである。

長野先生がおっしゃる「総合的な学習はいわば教科の結婚」「土に種を蒔くと芽が出て生長し、やがて花を咲かせるように教育はすぐに成果があるものではなく、何年か何十年後かに、あんなことをやったなと思い出せばよい。その時、役立てばなおよい」という言葉を今後も考えていきたいと思う。

最後に、研究授業にご協力頂いた方々に、深く感謝の意を表したい。